キャッシュ・フロー計算書

（平成28年４月１日から平成29年３月31日まで）

（単位：百万円）

科目	金額
Ⅰ　営業活動によるキャッシュ・フロー	
当期純利益	27,878
減価償却費	619
資金運用収益	△ 372,787
資金調達費用	208,872
賞与引当金の増加額	2
役員賞与引当金の増加額	0
退職給付引当金の増加額	11
役員退職慰労引当金の増加額	8
地方公共団体健全化基金の減少額	△ 3,557
金利変動準備金の増加額	220,000
公庫債権金利変動準備金の減少額	△ 80,341
利差補てん積立金の減少額	△ 7,323
貸付金の純増（△）減	△ 55,509
債券の純増減（△）	153,549
借入金の純増減（△）	50,000
資金運用による収入	373,725
資金調達による支出	△ 208,543
その他	△ 29,336
営業活動によるキャッシュ・フロー	277,268
Ⅱ　投資活動によるキャッシュ・フロー	
有価証券の償還による収入	585,400
有価証券の取得による支出	△ 516,400
有形固定資産の取得による支出	△ 2
無形固定資産の取得による支出	△ 208
投資活動によるキャッシュ・フロー	68,789
Ⅲ　財務活動によるキャッシュ・フロー	
国庫納付による支出	△ 200,000
公営競技納付金による収入	3,557
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 196,442
Ⅳ　現金及び現金同等物に係る換算差額	—
Ⅴ　現金及び現金同等物の増加額	149,615
Ⅵ　現金及び現金同等物の期首残高	711,611
Ⅶ　現金及び現金同等物の期末残高	861,226

重要な会計方針

１．有価証券の評価基準及び評価方法

有価証券の評価は、満期保有目的の債券については償却原価法（定額法）により行っております。

２．デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

時価法により行っております。

３．固定資産の減価償却の方法

⑴　有形固定資産

定額法を採用しております。なお、主な耐用年数は次のとおりです。

建物　23年～47年　　その他　２年～19年

⑵　無形固定資産

定額法を採用しております。なお、当地方公共団体金融機構（以下「機構」という。）利用のソフトウェアについては、５年で償却しております。

４．繰延資産の処理方法

債券発行費用は、発生した期に全額費用として処理しております。

５．外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権・債務については通貨スワップもしくは為替予約が付されており、振当処理を行っているため、確定している円貨額を付しております。

６．引当金の計上基準

⑴　賞与引当金

賞与引当金は、職員への賞与の支払に備えるため、職員に対する賞与の支給見込額のうち、当事業年度に帰属する額を計上しております。

⑵　役員賞与引当金

役員賞与引当金は、役員への賞与の支払に備えるため、役員に対する賞与の支給見込額のうち、当事業年度に帰属する額を計上しております。

⑶　退職給付引当金

退職給付引当金は、職員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、必要額を計上しております。

なお、退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

⑷　役員退職慰労引当金

役員退職慰労引当金は、役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく支給見込額のうち、当事業年度末までに発生していると認められる額を計上しております。

７．ヘッジ会計の方法

⑴　ヘッジ会計の方法

金利変動リスクのヘッジについて、金利スワップが特例処理の要件を満たす場合には特例処理を採用し、その他の場合には繰延ヘッジ処理を採用しております。

また、為替変動リスクのヘッジについて、振当処理の要件を満たす場合には振当処理を採用しております。

⑵　ヘッジ手段とヘッジ対象

［１］　ヘッジ手段・・・金利スワップ
　　ヘッジ対象・・・債券及び長期借入金

［２］　ヘッジ手段・・・通貨スワップ
　　ヘッジ対象・・・外貨建債券

［３］　ヘッジ手段・・・為替予約
　　ヘッジ対象・・・外貨預金